

金属行人

将来の工

エネルギーとして脚光を浴びる核融合発電。核分裂での現在の原子力

発電と比べ環境負荷の小ささや燃料調達のしやすさなどが特長だ。

世界で実証プロジェクトが進む中、日本で核融合発電関連産業の創出を目指すフュージョンエネルギー産業協議会(J-フュージョン)が開始した▼会員構成は核融合関連のスタートアップに加え、大手の建設会社・商社や金融機関など非常に幅広く、核融合発電実用化に向け日本企業・研究機関の総力を結集する陣容。金属関連企業の参画も目立つ状況で、未来を支える新技術の開発について寄与度の

高さが窺われる▼金属関連企業では電気が抵抗ゼロで細径でも大電流を流せる超電導線材を手掛ける古河電工やフジクラ、フアラデー・ファクトリー・ジャパンが参画。またタンクステン部品で実証案件への受注実績を有するアライドマテリアルや銅合金の管や板の技術で核融合分野に強みを持つ大和合金なども関わっている▼協議会の設立記念会合に出席した高市早苗内閣府特命担当大臣は「皆でまいた種を大きく育て、次の世代への贈り物にしていこう。国としても支援したい」と話した。金属関連企業の技術が生きる新エネルギーが子どもたち、孫たちの暮らしを支える日が来ることを祈りたい。